

来週の「売り物記事」はこれ



2017年7月14日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

いのちの調べ やまず／ALSのマリンバ奏者 16日(日)



2014年2月、全身の筋力が衰える不治の難病「ALS（筋萎縮性側索硬化症）」であることを告知されたプロのマリンバ奏者、針生惇史（はりう・あつし）さん、76歳。手足の自由を奪われて絶望の中で演奏を止めた針生さんが、作業療法士や音声再現ソフトを開発したプログラマーらの支援を受け、手

をつり上げる補助具や音声再現プログラムを活用して再びステージで調べを奏でるまでの軌跡を追いました。

筆者は東京社会部の萩尾信也専門編集委員です。



「共謀罪」施行でも消えない不安

「法の番人」は防波堤になれるのか

夕刊特集ワイド 18日(火)



「共謀罪」の成立要件を改めたテロ等準備罪を新設する改正組織犯罪処罰法が7月11日に施行されました。捜査機関による乱用を危惧する声に対し、政府は「強制捜査の前に裁判所のチェック機能が働くので心配ない」と反論してきました。しかし、本当に大丈夫なのか。2人の元裁判官は「裁判所といえどもチェックは困難」「むしろ冤罪を生みやすい社会になりかねない」と警鐘を鳴らします。共謀罪の危うさを改めて検証します。

私たちは幸せになっている？

2050年の技術と人間

夕刊特集ワイド 19日(水)

今から33年先、テクノロジーは人間を幸せにしているか——。英エコノミスト誌編集部がまとめた「2050年の技術」（邦訳版は文藝春秋刊）が話題になっています。人工知能、自動運転車、再生可能エネルギー、AR（拡張現実）めがね……。今をときめく技術は将来、私たちの社会を確実に変えると見られています。でも、だからといって「バラ色の未来」が待っていると言えるのか。識者や一般の人たちの声を聞きながら考えます。



過労自殺を防ぐ

くらしナビA面 19日(水)



長時間労働は体だけでなく心もむしばみ、ついには過労自殺に至るケースも後を絶ちません。「自殺するくらいなら会社を辞めて」という声も届かないのはなぜなのか。追い詰められる心理を描いた漫画が話題を呼んでいます。医師は「心身が発するサインに気づいたら、できるだけ早く手を打つように」と休養をとることや、病院の受診を呼びかけています。

子どもの安全を守るには

くらしナビA面 20日(木)

子どもだけで出かけたり留守番する機会が増えたりする夏休み。犯罪や事故に遭わないため、日頃からどのように教えればよいでしょうか。専門家は「危険を具体的に伝え、警戒する癖をつけさせてほしい」と呼びかけます。また被害に遭ってもそれを言わないことがあることから、「怖い目にあったら必ず教えて。悪いのはあなたではない」と伝えることも重要です。



卒母のすすめ

おんなのしんぶん 17日(月)



西原理恵子さんが子育て終了宣言した「卒母」(そつはは)。テレビやネットでも話題になっています。読者から卒母への思いを募る「卒母のススメ」に今週も多くの投稿が寄せられました。80代半ばになっても息子の病気を心配する母がいる一方、卒母モードに入り、もはや夫に興味はなく複数のボーイフレンドと楽しむ40代の女性。それぞれの思いを紹介します。

読み解きワード「年金受給資格の短縮」

医療・福祉面 19日(水)

公的年金の加入期間が8月に25年から10年に短縮されます。それによって保険料を納めたのに受給資格が得られず無年金だった人のうち高齢者約64万人が年金を受け取れるようになります。

ふんだんに図表を使って、公的年金の仕組みのほか、保険料を10年納めた場合あるいは20年、40年納めた場合の月々もらえる年金額を示すとともに、受給資格期間の国際比較などを紹介します。



ペンギンの生態「バイオロギング」で明らかに

科学面「ペンギンの科学」 20日(木)



愛くるしい姿で、動物園での人気が高いペンギン。自然界での生態はよく分かっていなかったが、動物にカメラなどを取り付ける「バイオロギング」という調査手法で生態が分かってきた。映像では、素早く海に潜ってオキアミを捕獲する姿や、氷の下に潜り込んでいた魚に近づき、食らいついていく様子が映っていた。暑い夏。南極にすむペンギンにいやされるかも？